

HATサッカークラブ



HATサッカークラブでは子どもたちと本気で、 サッカーで、『あそび』ます！！

子どもたちにとって『サッカーを楽しむこと』が何より大切です。子どもは小さな大人ではありません。大人のサッカーに子どもを合わせてはいけません。



からだを動かすことが楽しい！



うれしい！おもしろい！を感じられる、

子どもたちが楽しめるサッカーを・・・

みんなとサッカーをやって楽しくいろいろな経験をするのが大事。結果や勝敗は、キッズ年代(幼児～低学年)では重要ではありません。勝ってうれしい！負けて悔しい！の経験が重要なのです。

一人一人の『気持ち』を大切に、子どもたちの成長を、
HATスポーツクラブではやさしく辛抱強く助けていきます。

外遊びの減少・集団遊びの減少

【昔】 鬼ごっこ、木登り等の外遊びが中心。グループ(年齢、性別の違った仲間)遊びの中で、喜び、熱中、成功、失敗が原動力となって、からだ、精神、創造性、判断力、社会性が育てられました。大人の出る幕はありませんでした。

【今】 テレビ、コンピュータゲーム等の室内でかつ少人数(同性、同年齢)での遊びが台頭。リセットして何度も繰り返すことのできるゲームには悔しさや痛みを感じる場面がありません。時間や内容も大人がコントロールしなければなりません。

他人への無関心 教育力の低下

【昔】 社会的意識が高く、年代を超えた交流やつながりがありました。学校の先生も責任持って、こどもに厳しく規律やモラルを指導する環境がありました。

【今】 (諸事情がありますが) 注意したり、叱ったりする人が特別視され、他人のこどもに無関心な大人が増えてきました。規律やモラルを指導する場が減り、学校の先生も厳しく接することが難しくなってきました。

HATでは社会に足りないものに
目を向け関わっていきます

家庭環境の変化しつけの低下

【昔】 兄弟も多く、縦の組織がはっきりした大家族でした。全員での食事の機会を通して、家庭内でも日常的に競争や調整が必要とされていきました。また親の責任やこどもに対する要求も多く求められていました。

【今】 少子化によって、兄弟が少なく、個室が与えられる等、家族の間での刺激が少なくなりました。一人のこどもに対する親の期待が大きかったり、自分の基準でこどもに接するため過保護になったり、逆に放任になってしまうケースも出てきました。

強制されない

自由なスポーツの減少

【昔】 友たちが空き地や広場でボールを蹴ったり野球をしたりしていました。そこでは強制されることなくのびのびと自由にスポーツを楽しんでいました。

【今】 空き地や広場の減少と、交通事情の変化にともなって、自由な遊びの延長であるスポーツからクラブでプログラム化されたスポーツに変わってきました。